

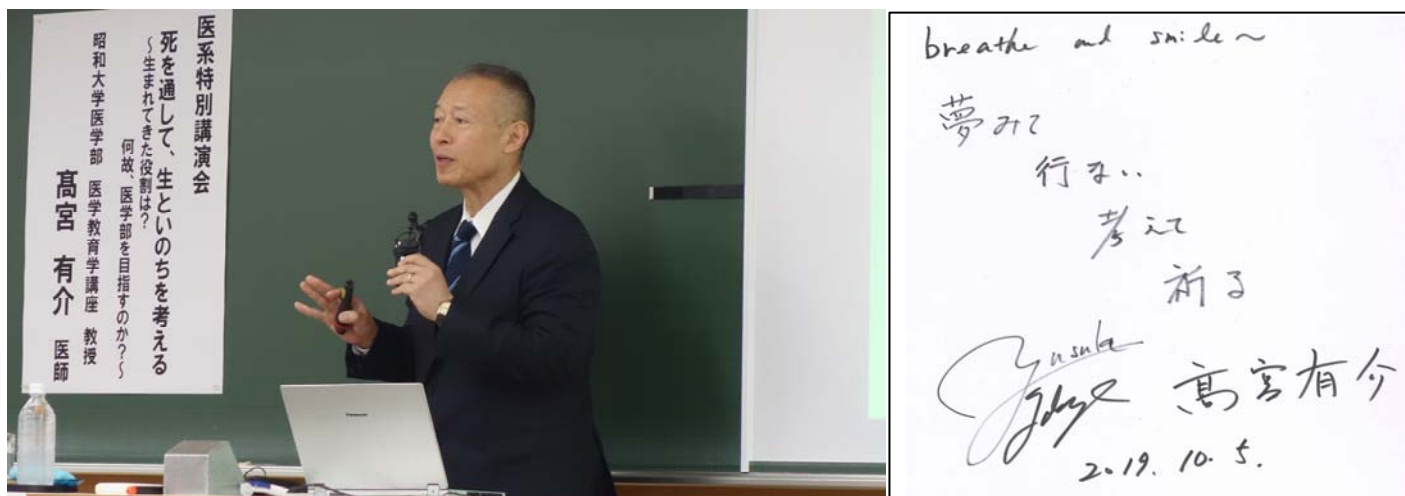
死を通して、生といのちを考える ～生まれてきた役割は？何故、医学部を目指すのか？～

講演者：昭和大学医学部 医学教育学講座 教授

高宮 有介 医師

市谷校舎では、昭和大学医学部で活躍されている高宮有介医師をお招きして、『死を通じて、生といのちを考える』をテーマに第2回医系特別講演会を実施しました。ホスピス・緩和ケアを専門とする高宮先生は、死を目の当たりにした患者の方々の心に寄り添う医師として日々活動されています。

講演では日々の治療の様子やご自身の患者の方々との接し方だけでなく、病に苦しむ全ての人がどのような思いをもち、何を欲しているのかをご自身の経験・世界での事例を通じてお話しくださいました。参加者にとって、患者の方々との向き合い方を改めて深く考えることのできる貴重な講演となりました。



講演受講者から寄せられたメッセージを、一部抜粋で紹介します。

- ・毎日当たり前だと思って生活していることがどれだけありがたいことか、どれだけかけがえのないことか、ということを感じることのできる講演でした。
- ・ホスピスの患者さんの例を数多く挙げていただき、一人ひとりの方々に物語があり、死が近づいても希望をもって生きていこうとしていることを知り、医師になった時自分自身も希望をもって向き合う必要性を感じました。
- ・患者さんの精神的な痛みを感じることのできる講演であり、患者さんの苦しみに寄り添える医師を目指したいと思いました。
- ・医師に求められることは多いですが、その中でも対話・コミュニケーションがとても大切だと学びました。
- ・医療とは「生」に向かって尽力するものだと思っていましたが、「死」に対して同等以上に向き合うべきと思いました。
- ・理想の医師を目指す上で、受験勉強へのモチベーションが高まる講演でした。

■実施日：2019年10月5日(土) 15:00～17:00

■会場：駿台予備学校 市谷校舎(医学部専門校舎)

*市谷校舎では、校内生を対象にした医系講演会を今後も実施いたします。